



青カミシ

烏山北小学校の教育目標

◎すすんで学びよく考える子ども

○豊かな心をもち仲良く助け合う子ども

○すすんで健康な体をつくる子ども

重点目標 みとめあい まなびあい そだてあい

<目指す児童像> 「かしこい子」「らしさを大事にする子」「きりつ正しい子」「たくましい子」

令和8年9月1日(火)
創立74周年 No. 5

烏山学舎 世田谷区立烏山北小学校 校長 河野 芳浩
〒157-0061 世田谷区北烏山6-3-1 TEL3300-5764 FAX3300-5785
学校HP <http://school.setagaya.ed.jp/kata/>



思い通りいかない日々を「面白がる」しなやかさで♪

校長 河野 芳浩

夏季休業中には、全国各地で地震や豪雨災害、酷暑・猛暑による健康被害等がありました。様々な出来事により、大きな悲しみや不安の中にある方もいらっしゃるかと存じます。日々の生活を通して少しずつでも悲しみや心の重荷が取り除かれ、癒しと慰めによって穏やかな日常が送れますようにと祈り、願います。

9月を迎えました。夏休みという長い停泊期間を終えて、新しい航海のスタートです。船はゆっくりと港を離れ、次の停泊地を目指します。2学期には、運動会や音楽会など大きな行事が予定されています。たどり着くには、時間がかかりますし、全景も見えませんが、しっかり行く先を見据えて、力を合わせて長い航海を楽しんでいきたいと思います。というものの、まだ体も心も重く、「楽しむなんて」とゆううつな気持ちだったり、気分が沈んでいたりする子どもも多いのではないかと思います。大人も同じです。

さて、数年前に亡くなられた女優の樹木希林さんが遺した数々の言葉の中に、次のような一節があります。

「楽しむのではなくて、面白がる。不幸せなこと、理不尽なことも、すべて面白がることができれば、人間は強い。」

私たちは普段、子どもたちに対して「学校を楽しもう」「日々を楽しもう」と声をかけることがあります。もちろん、楽しい出来事にあふれた毎日は素晴らしいものです。しかし、「楽しむ」ためには、自分の思い通りにいっていることや、都合の良い環境といった条件が必要になることが少なくありません。だからこそ、ひとたび計画が狂ったり、思い通りいかない現実に直面したりすると、私たちは「つまらない」「辛い」「もう無理」と感じてしまします。

一方で、樹木希林さんの言う「面白がる」とは、どのような姿勢でしょうか。

それは、自分の思い通りにいかない状況や、失敗、理不尽な出来事さえも、一步引いた視点から「へえ、そう来るか」「これはどう捉えようか」と、能動的に観察し、味わい直す視点のことです。

学校生活も、そしてこれからの人生も、子どもたちにとって「自分の思い通りにいかないこと」の連続です。一生懸命取り組んだのに思うような結果が出ないこと、友達と意見がすれ違ってしまふこと、自分の弱さに落ち込むこと。そんな時、「最悪だ」「もう無理だ」と心を閉ざしてしまうのではなく、「思い通りにいかないからこそ、人間の面白さがある」「これはどう乗り越えるドラマだろうか」と一步引いて状況を「面白がる」ことができれば、それは折れない心のしなやかさへと変わっていきます。

自分の都合よくいかない毎日を、知的な好奇心とユーモアをもって受け入れ、学びへと変えていく力。それこそが、変化の激しいこれからの時代を力強く生きていくために、私たちが子どもたちに育みたい本当の強さであって、大切にしたい「生きて働く力」なのだと考えます。

思い通りいかない瞬間こそ、新しい自分や新しい工夫に出会えるチャンスです。ご家庭や地域におかれましても、子どもたちが失敗や遠回りをした時には、「さあ、ここからどう面白くしていこうか」と、温かくそのプロセスを見守っていただければ幸いです。大人も子どもも、目の前の困難を「そう来るかー」と受け止める力と少しだけ「面白がる」余裕をもちながら、2学期の長い航海を共に喜び、共に泣き笑い、共に成長していける学校でありたいと考えています。2学期の「みとめあい まなびあい そだてあい」の学校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

9月うまれのおともだちへ

おたんじょうびおめでとうございます。けんこうがまもられてよろこびいっぱい、にこにこえがおのたのしいまいにちがすごせますように♪